

# シリーズ「肺がん」⑥

## 肺がんの治療に向きあうための食事の工夫

独立行政法人国立病院機構 和歌山病院

栄養管理室 皆川 健太

がんの治療中に患者さんから食欲がでない、味がしない、口がしみるなどいろいろな食事の悩みを伺います。食べないと弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。

がんの治療中に患者さんから食欲がでない、味がしない、口がしみるなどいろいろな食事の悩みを伺います。食べないと弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。

がんの治療中に患者さんから食欲がでない、味がしない、口がしみるなどいろいろな食事の悩みを伺います。食べないと弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。

がんの治療中に患者さんから食欲がでない、味がしない、口がしみるなどいろいろな食事の悩みを伺います。食べないと弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。

がんの治療中に患者さんから食欲がでない、味がしない、口がしみるなどいろいろな食事の悩みを伺います。食べないと弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。しかし、栄養が不足すると、やせ弱ってしまうと分かっているにもかかわらず不安に思ったり、がんだから仕方ないとあきらめてしまう場合もあります。

めん類、パン、酢の物など、さっぱりとした味で、のど越しの良いものです。食品を考えると、でもつらいときがあり、ますが、目の前に用意される口にするのもありますので、買い置きをしたり家族に伝えておくこともよいでしょう。可能であれば栄養価の高い食品を検討し、牛乳や豆腐、卵豆腐などたんぱく質を多く含む食品がおすすめです。2〜3回のおやつを摂ることで、1回あたりの食事が少なくても1日の中で多くの栄養を摂る方法もあります。手軽に置ける食品や菓子類、栄養補助食品は無理なく用意しやすいでしょう。

抗がん剤や放射線療法により口内炎や食道炎が生じ、痛くて食べにくいときには粘膜の刺激になる酸や香辛料、濃い塩味、固い物は避けます。煮物やあんかけ料理など、軟らかくて口当たりよいものが食べやすいでしょう。

食事がすすまなくなる他の原因として味覚異常や下痢、便秘などがあり、その他の持病や独居生活などで食生活が困難になるケースもあります。私たち管理栄養士は、個々の患者さんの病態や生活背景に応じた治療に少しでも役立てるような栄養指導を心がけてまいります。

食事がすすまなくなる他の原因として味覚異常や下痢、便秘などがあり、その他の持病や独居生活などで食生活が困難になるケースもあります。私たち管理栄養士は、個々の患者さんの病態や生活背景に応じた治療に少しでも役立てるような栄養指導を心がけてまいります。

食事がすすまなくなる他の原因として味覚異常や下痢、便秘などがあり、その他の持病や独居生活などで食生活が困難になるケースもあります。私たち管理栄養士は、個々の患者さんの病態や生活背景に応じた治療に少しでも役立てるような栄養指導を心がけてまいります。